

科目名	行政論特講	担当者	セキネ 関根 フミオ 二三夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	20 世紀になり顕著になってきた行政の多様化・複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。行政が持つ制度面や機能面の特徴を国家との関連において把握し、国家と行政とが如何なる関係にあるのかを学びます。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国家概念を理解することで、国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解することができるようになります。国家については、19 世紀の立法国家から 20 世紀の行政国家へ、また、社会については市民社会から大衆社会へと変遷してきており、それぞれの特徴を把握します。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>国家と国家機関との関係を、体系的に、かつ具体的に説明することができるようにします。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>行政に関する学問は、社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象とする学問です。テキストを熟読し、また社会の情報に関心を持ち、各単元 2 時間程度の予習と 2 時間程度の復習が必要になります。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>課題に関する質疑応答をメールのやり取りを中心に行います。その際、課題の要点を理解するような問いかけを行い、自発的に問題点を整理し、解決策を探ることができるようにします。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>テキスト学修を基本に、メールを用いた質疑を行います。</p>		
スケジュール	大学院が指定した提出期限までに課題についてのレポートを提出して頂きます。提出期限までに余裕を持って草稿を提出して頂き、何度かやり取りをした後、完成稿を提出して頂くことになります。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	履修上のポイントや到達目標、レポート課題の留意点を参考に評価します。
	平常評価	30%	質疑や添削草稿への対応を中心に評価します。
履修者への要望	内閣や大統領を頂点とする行政部で、どのようなことが行われているのか、また内閣や大統領と議会との関係はどのようになっているのかななどを、メディアの報道や記事などを参考にして考え、問題点を把握するように心掛けて下さい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 関根二三夫, 岩井奉信, 黒川貢三郎, 杉山逸男, 外山公美, 松木修二郎 教材名： 『教養政治学』（南窓社, 2013年）ISBN：978-4-81-650187-6 2,900円+税
	政治学の研究対象は広範囲に及びます。本書は、一般教養の政治学として執筆されたものでありますが、現代の政治を理解する上に必要な内容を含むものです。政治学の沿革、政治権力、国家と政府、政治過程、選挙と投票行動、政治と世論などが含まれており、国家に生起する政治現象の理解に役立つものと思われます。
参考図書	山田光矢編『政治学』（弘文堂, 2011年）ISBN:978-4-33-500192-5 2,000円+税
履修上のポイント	国家に生起する現象を政治面や社会面から把握することで、国家を立体的に理解することが可能になると思われます。国家を成立させる要素を伝統的に考えれば、国民、領域そして主権があります。それらの要素には、人間が深く係わりを有しており、政治現象や社会現象を理解する必要があります。現代国家においては、個人が国家を離れて生活することが不可能に思われますので、国家に生起する問題を理解することが重要です。
レポート課題 1	近代国家の成立と発展について述べよ。 留意点： 近代の市民社会から大衆社会への変化において、国家の機能が如何に変遷して来たのかを考察して欲しいと思われます。
レポート課題 2	国家と社会との関係について述べよ。 留意点： 一元的国家論と多元的国家論との違いについて考察して欲しいと思われます。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西尾勝 教材名： 『行政学』（有斐閣, 2001年）ISBN:978-4-64-104977-2 3,100円+税
	本書は、行政の制度を中心に管理や政策に重点を置いて述べています。国家行政や地方行政が円滑に遂行されるためには、行政の諸局面を考慮しなければなりません。行政と行政学の背景、行政制度の構造、行政過程の展開、行政管理の充実、行政統制の推進等がその内容になっています。
参考図書	外山公美編『行政学』（弘文堂, 2011年）ISBN:978-4-33-500195-6 2,400円+税
履修上のポイント	行政概念については、憲法、行政法、行政学などからの把握が可能です。三権分立的控除説や国家目的実現説などの法的把握以外に、行政過程説や統治機能説などの行政学的把握があります。行政学において行政概念がどのように把握されているか、また概念の把握に至る過程がどのようなものであるのかを、行政の諸局面を考察しながら考えて欲しいと思われます。
レポート課題 1	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学について述べよ。 留意点： シュタイン行政学は、ドイツ官房学を集大成し、行政法学への道を拓いたといわれます。シュタイン行政学が成立する背景、シュタインの国家観と行政との関係、行政学の内容、行政法学が台頭する理由などを考えて欲しいと思われます。
レポート課題 2	現代国家と行政統制について述べよ。 留意点： 19世紀の立法国家から20世紀の行政国家への移行は、行政府の政策立案機能や政策決定機能を増大させました。行政府を外在的に、また内在的に統制して行政の民主化を確保し、行政責任を明確にすることが必要です。